

50代のハッピーライフプランニング Part 3

老後長引く入院にいくら準備すればいい？

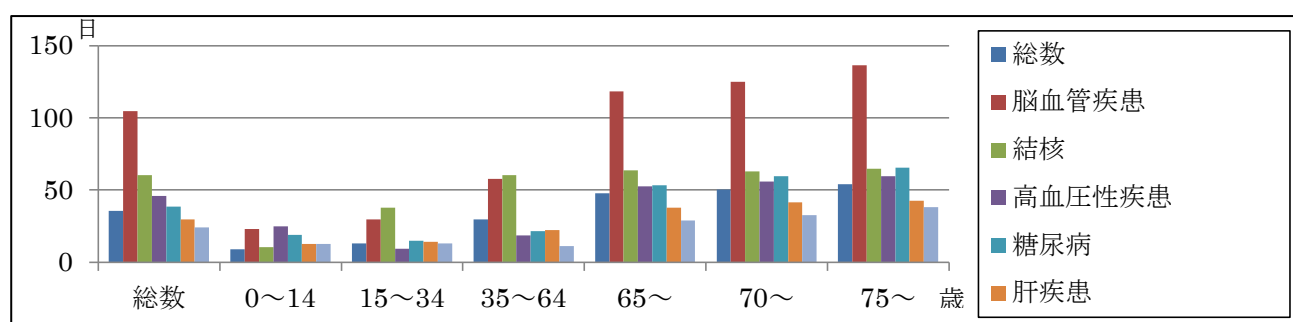
ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

前回のコラムでは、老後に心配な医療費について、高額療養費の制度を利用すれば、実際に自分で負担する医療費は、年齢や世帯収入によって上限額が決まっているというお話をしました。今回は、実際に高額な医療費がかかる病気、または治療が長引く病気にかかった場合いくら医療費を準備しておけばよいのか事例で考えてみたいと思います。

下のグラフを見てください。

傷病分類別・年齢階層別の平均入院日数

厚生労働省患者調査より筆者作成



このグラフから、65歳以降急激に入院期間が長くなる病気にかかりやすくなることがわかります。もっとも入院期間が長くなる病気は脳血管疾患で、65歳以降は平均で100日を超える入院をしていることがわかります。

では、実際に70歳の高齢者が脳梗塞で120日間入院治療をした場合、いったいいくら自己負担額が必要なのか計算してみましょう。所得区分一般（月収28万円未満）で試算します。

・1ヶ月目の入院	25日間	入院・手術・治療費	1,600,000円	日額1万円の差額ベッド代あり
・2ヶ月目の入院	31日間	入院治療費	870,000円	
・3ヶ月目の入院	30日間	入院治療費	850,000円	
・4ヶ月目の入院	31日間	入院治療費	500,000円	
・5ヶ月目の入院	3日間	入院資料費	30,000円	
合計			3,850,000円	

1ヶ月目治療費の内訳の例（生命保険文化センター 医療保障ガイド他参考に筆者作成）

初診料	2,700円	処置料	24,380円	入院料	939,000円
指導管理料	10,500円	画像診断料	47,430円	その他	273,870円
投薬料	29,210円	リハビリ料	79,800円		

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2013 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

注射料	163,840 円	検査料	29,270 円	合計	1,600,000 円
-----	-----------	-----	----------	----	-------------

Step1 高額療養費の制度を利用した後の自己負担額

70歳以上の自己負担限度額は、月収28万円以下の一般的な所得の場合、44000円となります。

1ヶ月の自己負担の限度額 $44000円 \times 4か月 = 176,000円$

5か月分の入院費（1割負担） $3,000円$

合計 $179,000円 \dots \dots A$

Step2 差額ベッド代 $10000円 \times 25日 = 250,000円 \dots \dots B$

差額ベッド代は健康保険対象外の療養になるため、本来は健康保険が適用される治療も含めて、全額自己負担になるはずですが。（混合診療は全額自己負担）しかし、厚生労働大臣が定める「選定療養」に当たるため、健康保険対象の治療部分については、健康保険を適用することができます。実際には、差額ベッド代は全額自己負担ですが、健康保険適用の治療については、1割負担となります。

また、差額ベッド代については、病院側の都合、たとえば、大部屋が空いていない、治療上個室が必要などといった場合、患者が自己負担する必要はありません。ただし、実際には、命にかかわる突然の入院の場合、家族の心情として個室治療を断ることが難しい場合もあるため、事例では差額ベッド代を入れました。

Step3 入院中の食事代 $1食260円$ （一般所得区分の場合）
 $260円 \times 120日 \times 3食 = 93,600円 \dots \dots C$

Step4 見舞い時の家族の交通費・外食費
 1ヵ月5万円とすると $200,000円 \dots \dots D$

Step5 その他 衣類・快気祝いなど $200,000円 \dots \dots E$

Step6 退院までの合計額 $A+B+C+D+E = 922,600円 \dots \dots F$

病気の度合い、選ぶ治療法、家族の事情等により、治療費など医療にまつわるお金には様々ではあるものの、上記の例から120日の入院治療をした場合であっても、かかるお金は4か月で92万円程度です。

入院治療にかかるお金の心配事としては、脳梗塞以外にも健康保険適用を受けることができない自由診療を受けた場合、医療費を全額自己負担するといくらかかるのか？また、保険会社のコマーシャルでよく耳にする先進医療を受けた場合いくらかかるのか？など、きわめてまれに高額な医療費がかかる場合を想定しがちです。しかし、難病指定がある病気については医療費がかからない場合もありますし、今後、医療保険制度の改正などで、医療費が高額にかかる人に対する救済措置がとられる可能性もあります。やみくもに医療費の心配をして、老後楽しく暮らすことにお金を使えなくては、本末転倒です。

この事例から考えると、老後の医療費は、介護・リハビリの費用を除いて、100万円程度の準備があれば、4か月の入院であっても最低限命を守るための医療は受けられる、ということのを頭の片隅に入れておいていただきたいと思います。

今回は、平均入院日数が長い病気ベスト5には入っていなかったものの、日本人の二人に一人は診断され、今後さらに増えると言われている「がん」の治療にかかるお金について考えてみたいと思います。